

双松会会報

第40号「双松会」通巻44号「松高北高同窓会報」通巻44号

発行 松江市奥谷町164番地 高根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL: 0852-21-4888
FAX: 0852-21-4977
印刷 有限会社高浜印刷 TEL: 0852-36-9100

青春グラフィティー

Vol.17

普通科28期・理数科7期
(昭和52年卒)

山口 章

窮屈な中にも

自由のあった濃密な時

平成も終わろうとしている7月27日。「還暦」同窓会が開催され、10年ぶりに同級生が一堂に会しました。一方、時は新時代、令和元年。「働き方改革」の下、リタイアの道を選べる者は少数で、新たにブラジルに赴任した人を始め、我々はまだまだ働き続けなければいけない世代です。「君は教えちよった時には大したことなかったけど、立派になられましたねえ。これからも頑張らないや。」と云う何とも言えない励ましの言葉を恩師からいただき、来し方への感慨にふける人も多くいました。

我々は、一部補習科延長教育を受けた4年を加えると、真の意味で川津校舎最後の卒業生となります。そして窮屈な中にも自由のあった時代の北高生でありました。

隣の静かな古典の授業を掻き消す生物・岡先生の熱い大声。授業が始まると「山月記」の冒頭を吟ぜられ、あまりの美しさに「これ以上教えるのは無駄というものです」と授業を終えられた藤脇先生。文系授業での珍解答に、生徒に背中を向け肩を震わせ笑っていた数学の土岐先生。毎日一句、自作も含め多く

の句を黒板で披露して頂いた石原先生。その他、記せば終わりのない数多の名物先生によって、私達は濃密な時間を川津校舎で過ごしてきました。

そして、この自由を勘違いした私達は、かなりやんちゃな行動も多かったのですが、平成や令和の時代ではなく、昭和で良かったと改めて感じ入った次第です。

同窓会は昨年9月、我々の代表である室崎隆司君により、まずは各R幹事が招集されました。趣旨は「双松会会報の巻頭に寄稿しなくてはならないので、ネタにする同窓会やつて」と云う切実かつ不純なお願いの態だったような……。その懇願に動かされた一騎当千の幹事が慣れないSNSを駆使し乍ら勧誘に努めた結果、恩師4名、同級生450余名の3分の1を超え163名が集うこととなりました。

何しろ10年振り。中には卒業以来の方もあり、ここ彼処で「あんた誰!」の声が飛び交っていました。開会前には恒例の全体写真。写真は隅々まで細かく鮮明に撮れており、画素の進化に隔世の感を抱きました。

同窓会は勿論、TSKアナウンサー岡本隆志君。恩師への記念品は松江陶苑の福島絵美さんに作陶頂いた花瓶としました。

開会と同時に会場は盛り上がり、やがて各Rが溶け合い混沌とした状態に。数多く形成された小宇宙に留まる人、漂う人、皆時間を埋めるかの様に会話を重ねて時間が過ぎていきました。

引き続き行われた全体二次会には凡そ7割が参加。この場では、学園祭の「音楽の集い」出演時の声援が忘れられずに現在もバンドを続けているオジサン達が、大倉寛子さんの激しい練習に耐えて懐かしい楽曲の数々で花を添えてくれました。

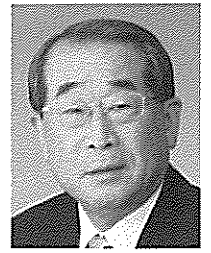
さて私達の期で特筆すべきは、竹中誠君が撮りためた8mmフィルムによるドラマ作品が現存していることです。今回二次会会場でも上映しました。そこには、当時の川津校舎の外観は言うに及ばず教室内や廊下の風景、松江市内のそこかしこの光景が収められています。昭和後期の松江を記録したこの映画は、先日行われた「ホーランエンヤ」同様、近い将来、松江歴史館に所望され孫曾孫の代には歴史館のキラーコンテンツとなっていくことでしょう。

その後、夜も深まった三次会以降は、二次会で記憶が飛んでる人、25時27時迄語り合う人、そのまま翌日のゴルフに興じるオジサン等千差万別。夫々が充実した時間を過ごしました。

本稿を閉じるにあたり、開催に尽力された幹事の皆様に深謝申し上げます。そして、還暦同窓会に参加頂いた方、出席叶わ

ずながらも後のSNSサイトで盛り上げてくれてる方すべての皆様に感謝致します。これからは各Rの会を中心に、数年後大きなうねりの中、再会を果たしましょう。





あいさつ

会長 金津 任紀

高16期(昭和40年卒)

暦の上では大暑の頃となり、今年も本格的な夏を迎えました。会員の皆さまには、ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。光陰矢の如しと申しますが、早いもので会長をお引き受けしてから4年の歳月が流れました。この間、会長として十分なこともできず皆まに支えられながら今日に至っていることに心より感謝を申し上げる次第です。同時に4年間とはいえ激変する社会経済情勢と目覚ましい技術革新にいささか戸惑いながら変化への適応力が求められていることを強く感じているところであります。

さて、5月1日に元号が「平成」から「令和」に改まりました。徳仁親王殿下の新天地への御即位を、皆さまと共に迎えられたことは誠にめでたく、心よりお慶びを申し上げます。日本最古の歌集「万葉集」を典拠とする新元号は、「うるわしい日本」の意味が込められているといわれています。時代を超越した日本人のアイデンティティを共有し、新たな国づくりをめざし令和の時代を生きていきたいものです。

にマッチした価値を創造するリーディングスクールとして邁進していただくことを願います。私も微力ながら応援していきたいと考えております。折りしも、島根県では「高校魅力化」への取組みが加速し、また松江の県立3校について「通学区廃止」の方針が打ち出された今、時代の変わり目に当たり、北高の北高たるゆえんを見つめなおす絶好の機会です。これまで偉大な歴史を創り上げてこられた諸先輩方から、これから生きる後輩たちへ時代を超えて継承していくべき伝統を共に考えていきたいと思っております。

思っております。また、超高齢化社会、人生100年時代にあつて本会活性化のために会員同士の世代間の交流も促していかなければなりません。そのような課題に対し時勢に合った情報発信の仕方を模索していくことの必要性を感じています。特に、遠方の各地区双松会の皆さまとは触れ合う機会が少なく、情報がタイムリーに行き届かない面もありますので、



学校長あいさつ

校長 常松 徹

平年より3週間近く遅れて中国地方も梅雨入りが発表されましたが、双松会の会員の皆様におかれましてはいかがが過ぎたでしょうか。私はこの4月の人事異動で本校の校長として着任しました常松徹と申します。残念ながら本校の卒業生ではありませんが、本校では今回で3度目、通算13年目の勤務となります。大学を卒業してすぐの昭和59年からの4年間、40代の平成16年からの8年間、そして今回です。教員としての基礎を築き、さらにミドルリーダーとしての自覚とスキルを身につけることができた本校での勤務経験は、今現在の私にとって大きな支えとなっており、自分の母校以上に思い入れのある学校と認識しており、そのような学校の校長として勤務できることを大変嬉しく思っております。同窓

関係の皆さまとご相談しながら双松会会員同士の絆を深めていければと思います。双松会では今年度も様々な同窓会活動を行ってまいりますので、会員の皆さまには今後とも一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。終わりに、本会の益々の隆盛発展と会員の皆さまのご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

会の皆様におかれましては、歴代校長の時と同様変わらぬご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

さて、皆様ご承知のように、「変化の予測が不可能な社会」においてたくましく、そして豊かな人生を送ることができるよう、能力を児童生徒に育成するため、国を挙げて教育改革が進められています。新学習指導要領の実施に向け、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善や、「社会に開かれた教育課程」の実現など、本校でも少しずつ、しかし着実にその実現に向けて動いています。また、今の中学2年生が高校受験をする令和3年3月の高校入試では、松江市内普通科高校の通学区が遂に撤廃され、その前提条件として、市内3校がそれぞれ特色化・魅力化する力が求められています。

多くの中学生が「行きたい」と思う学校、地域の方々に「応援したい」と思っていただけの学校、そして同窓会の皆様の「期待にお応えできる」学校となるよう、教職員・生徒が一丸となって取り組んで行く所存です。同窓会の皆様には、このことをご理解いただき、今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

※1 海外からの留学生を招き、3〜5日間を英語のみで過ごす。英語を用いて自分や自分の将来のこと、社会貢献などについて考え、英語でスピーチするプログラム。昨年度は41名の生徒が参加。

※2 アメリカ西海岸への短期留学ツアー。昨年度は4名の生徒が参加。

事務局だより

一、「世界の人たれ北高生！基金」について

創立140周年記念事業の一つ、寄付による新たな基金「世界の人たれ北高生！基金」を立ち上げさせていただきます。平成29年度末現在で1075万円余の寄付を頂戴いたしました。早速、昨年度からこの貴重な浄財を北高の諸活動で運用させていただきます。昨年度は、希望者が春休みを利用してアメリカ東海岸へホームステイを含む研修旅行(グローバルリーダー養成プログラム)に参加する際の補助として、世界の人たれ講演会において講師招聘に係る諸費用として本基金から拠出をさせていただきました。研修旅行には3名の参加があり、生徒は10日間にわたってアメリカの大学で英語を介しての講義を受けたり、ホームステイにより異文化交流を図るなど、様々な体験をしてきました。世界の人たれ講演会は本校普通科28期卒の三井物産株式会社執行役員、機械・輸送システム第一本部長の佐藤真吾様にお越し頂き、生徒は職業観を深めると同時にグローバルな視点をもってキャリア形成をしていく動機付けを得ました。

メントプログラム)を本校で実施いたします。松江に居ながらあたくも留学をしているかのような体験ができる事業と言えます。隔年実施であるこの事業を今年度は大きな柱と位置づけさせていただきます。現在参加者を募集中で、本基金からこの事業への参加費用を補助させていただきます。

二、各地区の双松会の動向について

○東京双松会の総会
平成30年10月13日(土)12時
於 アルカディア市ヶ谷

○近畿双松会の総会(60周年記念)
平成30年12月2日(日)11時半
於 中央電気倶楽部

○広島双松会の総会
平成30年11月10日(土)16時
於 広島ダイヤモンドホテル

○米子双松会の総会
平成31年3月中旬

三、寄付金のお礼(昨年の8月以降)

次の方々より、寄付金を頂いております。ご披露に合わせて、厚く御礼申し上げます。

○世界の人たれ北高生！基金へ
鐘榮和江様、松岡皓子様、松本行彦様

○140周年基金へ
嵯峨崎泰子様、横山ヤエ子様

四、起雲館耐震工事の完了について

○昨年度7月より10月まで起雲館の耐震工事が行われました。工事中はご不便をおかけしましたが、10月に耐震化が完了いたしました。老朽化が進んでいるものの、先般の地震にもしつかりと耐えてくれました。補習科生を中心に大切にに使わせていただいております。懐かしの展示室もありますのでご訪問をお待ちしております。

五、名簿「双松」について
創立140周年の記念事業として、平成28年に発刊いたしました同窓会名簿「双松」ですが、

平成30年度双松会幹事総会報告

7月8日(日)15時よりサンラボーむらくもにおいて、「幹事総会」が開催された。約60名が出席し、1時間半にわたり活発な議論がなされた。会合の後には懇親会も開かれ、和やかな時を過ごした。

- 一、平成29年度会務報告(承認)
二、同決算報告、監査報告(承認)
三、平成30年度会務計画(承認)
四、会計の統合について(承認)
五、平成30年度予算案(承認)
六、会報に関する諸経費援助のお願いについて(承認)
七、一般会計への寄付のお願いについて(承認)
八、役員改選について(承認)
九、平成30年度双松会幹事について(承認)
十、その他

- 【報告】
一、会報について
平成30年度双松会役員
顧問 金榮修(松中61期)
会長 松本幹彦(高1期)
副会長 庄司肇(高11期)
金津任紀(高16期)
古瀬誠(高16期)
勝部昌幸(高21期)
菅野恵子(高22期)
河原一期(高23期)
泉雄二郎(高26期)
小山理久(高28期)
(松江北高校校長)
幹事長 金平憲(高16期)
副幹事長 庄司尚史(高23期)
監事 栗原直観(高31期)
杉原康郎(高13期)
長廻仲治(高30期)
山口和助(高14期)
常任幹事 山口和子(高16期)

現在、若干の在庫がございます。価格5000円(送料・税込)にて販売いたしております。事務局までお問い合わせください。

Table with financial data for 平成29年度 双松会会計決算書. Includes columns for 収入総額, 支出総額, 繰越利益, and detailed expense breakdowns.

Table with financial data for 平成30年度 双松会会計予算書(案). Includes columns for 収入総額, 支出総額, 繰越利益, and detailed expense breakdowns.



150周年基金へ
18期同窓会より30万円
石飛裕様より金津任紀会長へ

- 事務局長 渡部 新
吉金 隆(高19期)
松田 龍志(高21期)
小原 優子(高22期)
玄行 登(高23期)
長崎 悦子(高29期)
林原 幹治(高29期)
長谷 敏行(高31期)
馬庭 伸行(高34期)
金井 真彦(高34期)
田邊 真司(高36期)
武本 雅之(高38期)
岩藤 立樹(高42期)
安松 崇徳(高43期)
裏辻 雅教(高46期)
勝(高32期)
(松江北高校教頭)

特集

第40回定期演奏会を開催

定期演奏会40年の「はじめの一步」

6月10日(日)に、島根県民会館大ホールにおいて、音楽系4部(合唱部・弦楽部・吹奏楽部・箏曲部)による定期演奏会が開催されました。800名を超えるお客様にお越しいただき、大変盛んなコンサートになりました。



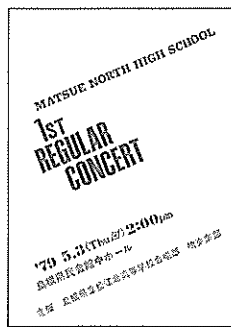
第40回定期演奏会「合同演奏」の様子

1979年(昭和54年)5月3日(木祝)14時より、松江北高校第1回定期演奏会が島根県民会館中ホールで開催されました。当時は、合唱部と吹奏楽部の出演でした。第1回から14回まで部員の皆さんと共に定期演奏会を作り上げられた勝部俊行先生(現島根県合唱連盟理事長)に、当時を振り返っていただきました。

「前任の米山道雄先生が、そのレールを敷いて下さった第一回定期演奏でしたが、吹奏楽部は、当時楽器が足りなくて校内の小中学校に楽器を借りに行ったことをよく覚えていきます。時にはリヤカーで楽器を借りに行き、学校まで運んだこともありましたが、合唱部は、今までに演奏されたことがない前衛的な曲がすでに選曲されていてとても大変だった記憶があります。

しかし本番まで、私はただ部員たちのなすことを見守っていただけで、実際には彼らが主体的に準備をし作り上げた演奏会でした。まさに質実剛健を表現してくれたのではないかと思います。自主的に生徒が創り上げていくという姿勢が、ひとつの北高定期演奏会の伝統となっていたのではないのでしょうか。」

北高定期演奏が始まった当時に想いを馳せることのできるエピソードでした。この第一歩から毎年欠かさずに開催され、今年ついに第40回目を迎えました。



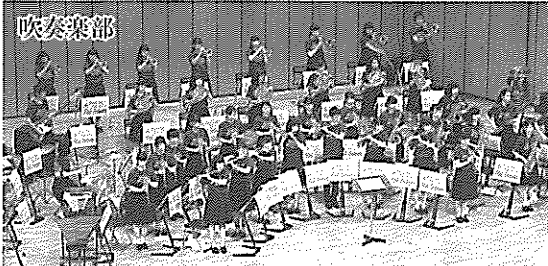
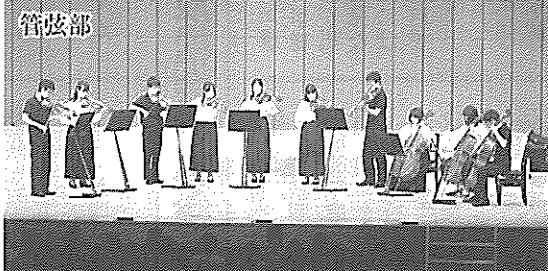
第1回定期演奏会プログラム表紙

第40回定期演奏会

今回の定期演奏会は、音楽系4部が、クラシックからミュージカルナンバー、ポップスまで幅広いジャンルの音楽を演奏しました。それぞれの趣向を凝らしたステージを展開し、お客様からは「箏の本格的な演奏を聞くのは初めてで、本当に感動しました。」「弦楽部さんの繊細な音色が心地よかったです。」「合唱部さんの軸がしっかりとした伸びやかな歌声が勉強になりました。」「吹奏楽部の演奏がとても迫力があって引き込まれました。」「合同演奏では涙が出そうになりました。」等のご感想をいただきました。



第40回定期演奏会プログラム表紙



これからの定期演奏会の「あゆみ」

プログラムに記載してありました「定期演奏会のあゆみ」を見ると、40年間の歴史を感じます。この「あゆみ」が、ずっと続きますように、これからも応援していきたいと思っています。

定期演奏会のあゆみ

第1回	昭和54年5月3日(木)	県民会館中ホール	勝部俊行先生直任、合唱部と吹奏楽部
第2回	昭和55年5月10日(土)	県民会館大ホール	勝部俊行先生直任
第3回	昭和56年5月9日(土)	県民会館大ホール	勝部俊行先生直任
第4回	昭和57年5月15日(土)	県民会館大ホール	合唱部NHK全国3位
第5回	昭和58年6月25日(土)	県民会館大ホール	合唱部NHK全国1位
第6回	昭和59年6月23日(土)	県民会館大ホール	(合唱部におふろ登場)
第7回	昭和60年6月22日(土)	県民会館大ホール	合唱部NHK全国2位
第8回	昭和61年9月20日(土)	県民会館大ホール	北高創立10周年記念
第9回	昭和62年6月19日(土)	県民会館大ホール	
第10回	昭和63年6月20日(日)	県民会館大ホール	
第11回	平成元年6月16日(金)	県民会館大ホール	吹奏楽部中国大会金賞 合唱部NHK全国4位 吹奏楽部中国大会金賞 吹奏楽部員167名 合唱部NHK全国2位
第12回	平成2年6月16日(土)	県民会館大ホール	
第13回	平成3年6月15日(土)	アパホテル	合唱部NHK全国2位
第14回	平成4年6月12日(金)	県民会館中ホール	合唱部117名
第15回	平成5年6月12日(土)	県民会館大ホール	石原久夫先生直任
第16回	平成6年6月11日(土)	県民会館大ホール	
第17回	平成7年6月10日(土)	県民会館大ホール	合唱部NHK全国3位
第18回	平成8年6月15日(土)	県民会館大ホール	合唱部NHK全国3位、日本全国金賞
第19回	平成9年6月14日(土)	県民会館大ホール	
第20回	平成10年6月13日(土)	県民会館大ホール	
第21回	平成11年6月13日(日)	県民会館大ホール	合唱部NHK全国3位
第22回	平成12年6月11日(日)	県民会館大ホール	
第23回	平成13年6月10日(日)	アパホテル	
第24回	平成14年6月9日(日)	県民会館大ホール	
第25回	平成15年6月8日(日)	県民会館大ホール	勝部俊行先生直任
第26回	平成16年6月7日(土)	県民会館大ホール	
第27回	平成17年6月2日(土)	県民会館大ホール	
第28回	平成18年6月10日(土)	県民会館大ホール	弦楽部NHK全国4位、合同演奏会
第29回	平成19年6月10日(日)	県民会館大ホール	
第30回	平成20年6月8日(土)	県民会館大ホール	合唱部全国大会金賞
第31回	平成21年6月14日(日)	県民会館大ホール	この年より「あゆみ」設定「あゆみ」
第32回	平成22年6月20日(日)	県民会館大ホール	「あゆみ」
第33回	平成23年6月19日(日)	県民会館大ホール	「あゆみ」内藤永樹先生直任
第34回	平成24年6月18日(日)	県民会館大ホール	「あゆみ」
第35回	平成25年6月19日(日)	県民会館大ホール	「あゆみ」
第36回	平成26年6月18日(日)	県民会館大ホール	「あゆみ」
第37回	平成27年6月14日(日)	県民会館大ホール	「あゆみ」
第38回	平成28年6月12日(日)	アパホテル	「あゆみ」140周年記念(弦楽部同好会が主催)
第39回	平成29年6月11日(日)	県民会館大ホール	「あゆみ」で全てをみつづける。
第40回	平成30年6月10日(日)	県民会館大ホール	井上大祐先生直任

各期だより

高12期生「喜寿記念同窓会」のご案内

昭和36年西川津校舎を巣立った同級生の皆様、如何お過ごしですか。

さて、私達、松高12期生は、めでたく喜寿を迎えます。

人生百年時代と言われる今日、第二の人生を有意義に過ごすためにも、セピア色も褪せてきた記憶を思い起こして、懐かしい面々が一堂に会し、旧交を温め、楽しい集いになればと思います。

是非皆様と一緒に、喜寿の祝杯を傾けたく思いますので、お互い連絡を取り合って、多数のご参加をお待ちしております。

日時 平成30年10月2日(火)

16時受付開始

場所 松江エクセルホテル東急(JR松江駅北口)

松江北高、ここであらう！

高39期 中西 一滋

去る平成29年8月12日、サンラボームらくもにて、普通科第39期、理科第18期(昭和63年



松江北高等学校普通科第39期理科第18期卒業30周年同窓会 平成29年8月12日 松ノラボーム556

卒)同窓会を開催しました。これまでは卒業20年、25年のお正月に催してきましたが、30年という節目にあたり、より多くの同窓生に参加してもらいたいという思いから、お盆前の連休中日に開催すると案内しました。

当日は、84名の参加があり、また恩師の安田先生、北尾先生をお招きし、賑やかで懐かしい時間を過ごしました。

卒業以来初めて顔を合わせる人、30年前と雰囲気?が変わっていて、「誰だっけ?」と本人に聞けず、周りの人に質問する人、お酒も入っていないのに「いやー久しぶり」とハイテンションな人、昔は無口だったのにおしゃべりになった人など、最初は比較的静かにスタートしました。

お酒が入り、雰囲気気が和むと、あちこちから悲鳴に近い喜びの

声や「全然かわらんなー」と歓声が上がったり、会場内に多くの輪ができました。

念願叶ってようやく同窓会に参加できた安達君から、東京地区の同窓会開催提案が出たり、東京神保町で飲食店を経営している赤井君から店の宣伝があったり、世話人が持ち寄った高校時代の写真を上映したり、先生方から当時のエピソードを話していたり、とても楽しい一時はあっという間に過ぎ、最後に校歌を歌い、中締めとなりました。

二次会は伊勢宮mayibeに場所を移しました。ほとんどの人が参加し、二次会からの参加者もあり、さらに盛り上がりました。

今回で三回目の同窓会でしたが、まだ一度も参加できていない人が多くいます。35年40年と会を続け、一人でも多くの人と再会できればと願っています。最後になりましたが、会の運営にあたり、快く協力してくれた世話人の方々に感謝致します。

双松会地区だより

東京双松会

東京双松会 事務局長 中村 康一 (高16期)

同窓会からシニアの集いと言うイメージが中々拭いきれませんが、同期卒業生の集いは、それなりに盛り上がりつつあるという

話はよく耳にします。総会参加者の卒業年度からみれば西川津校舎、赤山校舎を巣立ってから30年以上の方が多いいのも事実です。

現役で活躍されている諸氏が多忙なのは当然のことですが、世代を超えた交流の場でもある総会に気軽に足を運んで頂くべく、日頃方策に頭を悩ませています。

そんな思いから、今年の総会は若返りを目指した方向を打ち出すことに致しました。

講演は田部長右衛門氏(北高平成10年卒)。数多くの会社や団体の代表として、出雲地方のみならず東京でも活躍されています。田部家は江戸時代、松江藩の製鉄の中心であり、第25代当主の田部氏は本年5月、日本古来の「たたら製鉄」を約100年ぶりに復活させました。その復活にかける思いや、島根の将来性などを語って頂きます。

又、初の試みとしてエンターテイメントを企画しました。シンガーソングライターの山根万理奈さん(北高平成20年卒)に、懇親会の中で自由を披露して頂きます。

先日、友人から、文藝春秋7月号の「同級生交歓」欄に北高27期が出ていたとのメールももらいました。早速、頁を開いたところ東京双松会の会員の方も登場されていたのでとても嬉しく誇りに思いました。

本年度の総会は、下記の通りです。楽しく有意義な交流の場になればと思っております。

平成30年度 第63回総会

活動報告、講演、懇親会

・期日:10月13日(日)

・会場:アルカディア市ヶ谷(私学会館)

・JR/地下鉄市ヶ谷駅 徒歩2分

・講演:田部長右衛門(株)田部代表取締役社長、山陰中央テレビジョン放送(株)代表取締役社長

・演題「田部家750年 たたら製鉄550年 からの島根(仮)」

・エンターテイメント:山根万理奈

・お問い合わせ先:東京双松会事務局

〒102-10084 千代田区二番町11-3

TEL 03-3265-4858

近畿双松会

近畿双松会 事務局長 渡辺 悟 (高20期)

29年度総会は100名が出席。元文部科学省科学技術・学術政策局長の泉紳一郎氏(高24・理3) 〓 大和大学理工学部設置準備室長 〓 「科学技術の担い手の育成」日本の将来のキーポイント」と題して講演していただきました。

また、28年度百人一首かるた読み手部門高校日本一に輝いた寺井萌乃さん(高68) 〓 大阪大

学IIが学生ゲストとして参加。松江から駆けつけた堀江玲美先生(高62)は元百人一首部部長として登壇し、会場からのリクエストに答えて天智天皇、山部赤人能因法師など5首を代わるがわるマイクなしで披露。夢の競演に万雷の拍手が送られました。

28年度総会で兵庫県立大学学長として講演をしていただいた清原正義氏(高16)が今回、島根県立大学学長として参加され、「全国」の地方貢献型大学にした」との力強い挨拶をいただきました。

本年度は当会が戦後の活動を再開して60周年の節目に当たります。近畿在住の皆さん、ぜひ諸事業にご参加ください。

平成30年度「60周年」記念「総会・講演会・謝恩懇親会」(9月に詳細をご案内)

・期日:12月2日(日)

午前11時半~午後3時半

・会場:中央電気倶楽部

(大阪市北区)

・記念講演講師:高橋一清氏

松江観光文化プロデューサー、「湖都松江」編集

統括、元文芸春秋各誌

編集長

・記念大福引大会

松江を中心とする郷土産品の福引(空くじなし)を計画中。

その他の行事

ゴルフ、文楽鑑賞、歴史ウォーキング、里山ハイキング、宝塚

歌劇鑑賞、落語鑑賞、年次会報発行

お問い合わせ先

・事務局長 渡辺悟宛

携帯:090-1449-6085

メール:s.watanabe@kousoku-

offset.co.jp

・近畿双松会ホームページから参加申し込みもできます。

↓http://www.kinki-soushokai.org/

米子双松会

米子双松会 事務局長 中西 秀夫 (高15期)

本年総会は3月11日、双松会から金平憲幹理事長、松江北高校から小山理久校長をお迎えし開催しました。小山校長からは生徒の制作したDVDにより学校の近況報告をしていただきました。また米子市在住の三味線奏者上田福美さんの民謡や津軽三味線の演奏を楽しみました。二次会のカラオケ大会も盛り上がりました。

恒例の納涼会は7月8日に開催し、安来市在住の永見萌野さん(北高平成16年卒・55期)に『後悔しない航海のススメ』と題して、アメリカ・プリンセスクルーズ社の豪華客船クルーズとして世界各地を航海した体験を話していただきました。続く懇親会では大山地ビル大山ゴルフ場で猛暑を元気に乗り切るパワーをチャージに暑気払いをしました。

ゴルフ部会は毎月20名前後の参加で大山周辺3ゴルフ場でコンペを行っています。旅行部会は10月頃に「大山開

山1300年」のイベントに合わせ計画中です。

米子市周辺(周辺でない方も歓迎)に在住・勤務の方、入会をお待ちしています。

連絡先

米子双松会事務局

〒689-3402

米子市淀江町淀江77-1

TEL&FAX

0859-5612315

広島双松会

広島双松会 幹事長 石原 通弘 (高13期)

平成29年11月に12回総会を双松会会長金津任紀様及び北高教頭渡部勝様、北高教諭井口環様にご臨席賜り開催し、活動計画等を決定しました。

また、設立当時より数々の支援を頂いている島根県広島事務所から所長の長田茂男様に出席賜り、総会に華を添えていただきました。

設立以来同級生や職域を通じて口コミで情報を伝達することとしていきます。会報をご覧いただいた方、事務局へご連絡いただければ喜びます。

一、今年の活動計画

今年の活動は恒例の総会・懇親会に、納涼親睦会1回、ゴルフコンペ3回程度開催して会員の親睦を深めます。

二、第13回総会・懇親会

日時:平成30年11月10日(土)

16時~19時

場所:広島ダイヤモンドホテル

(広島市西区観音新町 2-1-6)

三、その他の行事予定

①納涼親睦会

日時:平成30年7月20日(金)

18時30分

場所:さこう広島本店本館

「マダムシエンロン」

(広島市中区)

②親睦ゴルフコンペ

日時:平成30年9月29日(土)

場所:瀬野川カンツリー倶楽部

(広島市安芸区瀬野川町)

四、連絡先

幹事長 石原 通弘

〒739-1742

広島市安芸区北尾崎二丁目29番26号

TEL&FAX

082-842-1416

携帯電話

090-9507-12312

E-Mail

ishihara2926@member.nip

安来双松会

安来(東部)双松会 幹事長 足立三樹夫 (高16期)

昨年12月2日に市の「夢ランドしらすぎ」で安来地区の双松会を開催いたしました。

近年は、役員の高齢化や市内在住会員の連絡困難などの事情から総会がもてませんでした。これには事務局として責任を痛感しております。

今回は卒業生有志が世話人として「卒業生追懐談笑の集い」の名称で各人が思いおこす人々に呼びかけました。

当日は約40名の方が参加して下さいました。10年ぶりの集会としては一応及第点には達したと思えます。

はじめに大槻嘉光世話人代表の熱い想いを込めたご挨拶があり、渡部教頭から母校の近況、活動報告がありました。

乾杯のあと久しぶりに出会った方、又はじめてお会いする先輩方と共に話がはずみました。

ここでは東部双松会の現実の課題などたくさんの方の意見をいただきました。名称についても島根県東部(松江等も含む)の双松会と誤解されている面もあるので変更したらという提案もありました。その後島田一嗣会長のもとで検討し、市町村合併により新安来市も誕生したことで

もあり「安来双松会」と会の名称を変更した上、会の持続性を願って、会長はじめ役員若返りを図ることにより、発展的に継承しようとの思いで一致いたしました。

今後はより積極的な活動をめざしたいと思えます。

通信制双松会

通信制双松会 会長 野津 裕

松江北高通信制が平成25年に閉講になり同窓会は名称を通信制双松会と改めて発足致しました。閉講するまでの総会の運営は各年の卒業生の中より1、2名の幹事を選出してその幹事会を総会に替える方式で行っていましたが、通信制双松会になってか

下さい。

申し込み締切り 10月20日
〒692-0016

安来市東赤江町1-37-22
瀬崎 鶴夫 行き

お問い合わせは 瀬崎 鶴夫
(090)7777-8821

北高生の活躍

島根県高等学校 総合体育大会

男女総合準優勝

(男子総合2位・女子総合3位)

5月下旬から6月上旬にかけて第57回島根県高等学校総合体育大会が行われました。各部熱戦を繰り広げた結果、男女総合(Aグループ)第2位となりました。各部それぞれ目標に向かい、全力を尽くしました。7月下旬から鹿児島県・熊本県・宮崎県・沖縄県・和歌山県で開催される全国高校総体(インターハイ)に出場するチーム・選手を紹介いたします。

陸上競技部

男子5000m競歩

半田 匠

登山部

男子団体 3年 木村虎太郎

周藤 颯志

石原 湧大

遠藤 詞温

ボート

女子舵手付きクオドルプル

3年 實原絵美里

中島 凧咲

錦織 真優

2年 三島 杏夏

持田 なほ

野津志優実

中村あゆみ

新体操

3年 永見 光里

弓道部

女子個人 2年 和田美沙希



総体報告会の様子

文化部の活躍

県内予選を通過し、8月に佐賀県で行われる全国高等学校総合文化祭に出場する部を紹介いたします。

〇百人一首かるた部

島根県代表チーム

3年 曾田 夏帆

寺井 涼乃

〇囲碁将棋部

1年 永田睦咲子

将棋 3年 有間 嗣朗

2年 山本 大志

1年 古志野勝喜

2年 青山 佳史

〇自然科学部

研究発表地学部門 3年 守岡 里穂

その他の全国大会

〇囲碁将棋部

全国高校囲碁選手権

女子団体 2年 木戸 春霞

新田 真由

1年 永田睦咲子

2年 木戸 春霞

1年 永田睦咲子

**「世界の人たれ
北高生！基金」
の活動報告**

創立140周年記念事業の一つとして、立ち上げられた「世界の人たれ北高生！基金」につきまして、次のような形で本校の教育活動の実施費用として、また本校生徒の研修費用の補助として拠出させて

いただきましたので、ご報告いたします。

〇エンバワーメントプログラム

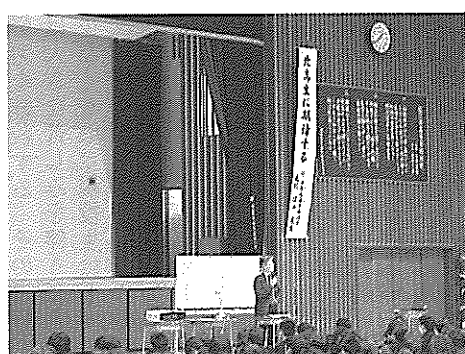
平成30年12月22日(土)、
26日(水)(5日間)

今回40名の生徒が標記プログラムに参加し、海外から招かれた大学生と充実した5日間を過ごしました。英語力の向上はもちろん、英語でのアイスカッションやプロジェクト型学習を通し、これからの時代に何が必要かを国際的な視野のもとに考えるよい機会になりました。

〇世界の人たれ講演会

平成31年3月20日(水)

本校卒業生である前国土交通事務次官、現三井住友信託銀行顧問、毛利信二氏に講師として来校していただき、「北高生に期待する」という演題で講演していただきました。ご自分の経歴や学生時代の経



験にも触れていただきながら、北高生に向けて熱いメッセージを伝えていただきました。以下は生徒の感想の抜粋です。

「最後の「昨日の夢は今日の希望になる」というお言葉を聞いて、私も今持っている夢に向けて、この一年一生懸命頑張ろうと思いました。」
生徒たちは、講演を聴いて、夢を持つことの大切さを実感したようです。

〇アメリカ研修旅行(グローバルリーダー養成プログラム)

平成31年3月23日(土)
4月6日(土)(15日間)

本校の国際理解教育プログラムの一環として、4名の生徒(1年生3名、2年生1名)がこのプログラムに参加しました。ホームステイや語学研修、アメリカでも有数の名門大学であるワシントン大学の見学、今回初めての企画である企業訪問(ボーイング社航空センター)を通し、大いに見聞を広め、国際社会に目を向けることができたようです。生徒たちは現地学生との交流もとおして、多様な考えを学びました。

多くの方のご支援のおかげで、本校生徒たちが大変貴重な学びの機会を与えることができました。ご報告に併せて厚くお礼申し上げます。

本年度の進路状況

進路指導部長 富田 一志

(理科12期)

2019年度大学入試センター試験における受験者数は、前年から5千841人減の57万6千830人で4年振りの減少となった。一方で国公立大学一般選抜志願者総数は前年から4千128人増の46万9千836人で、8年振りの増加であった。志願倍率は、微増の4.68倍であった。平均点は、文系570点、理系575点(いずれも900点満点)と、いずれも前年度対比では、文系が16点アップ、理系は12点アップといずれも10点以上のアップとなった。文系、理系いずれも10点以上のアップとなったのは、国語が16.9点、英語リスニングが8.8点アップしたことが大きな要因である。学部系統別の志願者数を見ると、国立大前期日程で文系(人文科学、外国語、法、経済・経営・商、社会、国際関係)が増加し、一方、理系および医療系(保健衛生、医、歯、薬、理工、農・水産)の合計は前年度並みであった。

期合格者数が昨年の173から149、中後期合格者数も昨年の38から27と、どの日程でも減少した。いわゆる難関10大学(旧帝国大7大学+一橋・東京工業・神戸)の合格者数は22で昨年の29から減少。国公立大医学科は9であった。クラス数が7になった初めての学年ということもあるが苦戦したことは間違いない。次年度以降、生徒の希望を叶えることができるようにいつそう努力しなければならぬ。

2020年度の高3生(現在の高2生)から、現行の「大学入試センター試験」が「大学入学共通テスト」に変更になるが、その内容が少しずつ明らかになってきている。数学①(数学I部分)に記述が導入され試験時間が60分から70分に延長になること。国語に記述解答が導入され試験時間が80分が100分に延長になり記述部分の得点はマーク部分とは別に提供されること。英語の4技能を測るために英語外部試験利用が始まること。英語の配点が筆記記100点、リスニング100点に変更になること。また、学習評価に関して、ポートフォリオ評価を導入、調査書の形式も変わると言われている。

様々なことが変化しつつあるのである。この改革は、先行き不透明な社会を生き抜く力をつけるために、大学教育・高等学校教育とその2つをつなぐ大学入学者選抜を三位一体で改革する「高大接続改革」の一部で、大学教育・高等学校教育の改革は既に進行している。また、大学入学者選抜においても、入試問題の質や、入試形態に改革の兆しは見え始めている。入試改革では、面接試験での自分の思いが重視され、プレゼンテーションを課す大学も徐々に増えている。この改革の源流は、「社会がどのような人材を求めているか」にある。すなわち、高校生にとっては、「どのような人材になるか」という問題を「自分事」として考えていく必要がある。自分がどんな力をつけ、どんな形で社会に貢献し、どんな人々を幸せにするために生きるのか、そんな「生き方」を考え、次のステージを選択することが重要になる。それがいわゆる将来の「夢」につながる。その夢に対する思いが強ければ強いほど、目の前の高い壁に向かう意欲が強くなる。次のステージに向けて壁を乗り越えることこそが「受験」である。北高では、何度も何度も面談を繰り返して、何度も進路希望調査を行う中で、自分の「生き方」を考え、そのために必要な力をつけるための

努力を継続する。その過程では大きな苦しみを伴うことも少なくない。現役生にとつては、何もかもが初めての経験で、手探りで模索が続く。しかし、その経験を乗り越えたとき、知らぬ間に「生き方」を考え、前に進むことができるようになる。

北高での日々の学習や生徒会活動、文武両道の精神、近年取り組んでいる課題解決型学習など、北高におけるすべての教育活動が、今求められている力の育成につながっているのである。

進路状況

平成31年度入試学校種別合格者延べ数及び就職者数 (平成31年4月集計)

卒業生	平成29年3月			平成30年3月			平成31年3月		
	現	卒	計	現	卒	計	現	卒	計
国立大学	137	27	164	134	29	163	110	33	143
公立大学	42	1	43	41	6	47	39	6	45
私立大学	189	35	224	234	27	261	220	59	279
短期大学	28	2	30	16		16	17		17
専門学校	24		24	27		27	19		19
就職者			0			0		1	1
合計	420	65	485	452	62	514	405	99	504
クラス数	8クラス			8クラス			7クラス		

編集後記

令和元年度。新たな時代の幕開けを刻んだ今年度の会報は、まさに「新」がテーマになっており、特集で紹介いただいたように、今年3月には赤山の台上に「新生松」が植樹されました。また校内では、来るべき「通学区廃止」に合わせ、高校の特色化・魅力化を目指す取組みが着々と進められています。そして来年度からは新たに「大学入学共通テスト」が実施されます。目まぐるしい変化に対応するため、現場の教職員も手探りで模索する毎日です。

そのような中、今回、第一面を飾っていただいた還暦同窓会の記事を拝読し、昭和50年頃の授業風景を思い浮かべ、心が和みました。偶然にも「山月記」は先日、現代文の授業で扱った小説です。漢文調の文体で書かれており、今の生徒たちに受け入れられるか多少の不安を感じながら授業を進めておりました。しかし、思わず涙ぐむ生徒や、虎となった李徴について熱く語り合う生徒、原稿用紙いっぱい感想を綴る生徒たちの姿を見ながら、どんな時代が移り変わっても、変わらない確かなものがあるということを改めて感じました。

母校に勤務して6年目になりますが、「質実剛健」の言葉は、今も変わらず教員としての自分を支え続けています。受け継がれる良さものを胸に、新たな時代を、生徒と共に「真面目にたくましく」歩んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、今回御多忙の中、原稿をお寄せいただいた皆様、誠にありがとうございます。皆様の御多幸をお祈り申し上げます。

(事務局)